

平成 31 年 1 月 31 日

鈴鹿市長 末松 則子 様

鈴鹿市廃棄物減量等推進審議会
会長 甲斐 穂高



鈴鹿市一般廃棄物処理基本計画について（答申）

平成 30 年 5 月 9 日付けで、鈴廃第 203 号にて貴市から諮問のありました鈴鹿市一般廃棄物処理基本計画について、本審議会では慎重に審議を重ねた結果「鈴鹿市一般廃棄物処理基本計画（案）」を取りまとめましたので、下記のとおり意見を付して答申いたします。

記

- 1 一般廃棄物処理基本計画の運用にあたっては、長期的な視点に立ち、安定した廃棄物処理と将来の循環型社会の構築に向けて、本計画の基本方針等に基づく各種施策を積極的に推進することにより、成果指標（目標値）が達成できるよう、鈴鹿市総合計画の関連分野と合わせて進捗管理を行っていただきたい。また、ごみ処理分野については、発生の抑制に加えて、リサイクルを更に推進していくために、市民や事業者にわかりやすい啓発と、行動しやすい施策を実施していただきたい。
- 2 鈴鹿市においては、今後 1 人 1 日当たりのごみ発生量が増加していく予測である。また、近年、食べ残しや未調理の食品が廃棄される「食品ロス」が問題視されてきている。このことから、ごみ減量化に向けて、食品ロス削減を積極的に推進し、市民、事業者への啓発と具体的な施策の展開を図っていただきたい。
- 3 事業系廃棄物については、廃プラスチック類の処理場への受入れ方の検討を行い、排出事業者に対する十分な周知を行うなど、事業活動への影響に配慮しながら減量施策を推進していただきたい。また、事業系一般廃棄物の分別指導の徹底による減量や資源化の促進を図っていただきたい。

- 4 民間の拠点回収場所に持ち込まれる資源ごみなど、行政回収以外でリサイクルされる資源ごみの量を数値化して、市民の資源化行動を促進できる施策を検討し、実施していただきたい。
- 5 もやせるごみに混入されている空き箱や紙袋、包装紙などの「雑がみ」が、リサイクルできることを更に深く市民に浸透していただきたい。また、「雑がみ回収量」の増加に向けて、新たな取組みを推進していただきたい。
- 6 ごみの収集体制を見直す際には、将来の社会経済状況や人口状況、ごみ集積所への排出量の動向、収集の効率性などを正確に見極めるとともに、地域の実情にも配慮しながら、慎重に検討を行っていただきたい。
- 7 ごみ発生量推計は、計画策定の重要な基礎データとなることから、計画の見直しにあたっては、ごみの発生量などの最新の情報を常に把握するとともに、国が示す数値や考え方との整合を図りながら、推計を行っていただきたい。
- 8 し尿処理施設については、日々の市民生活に支障をきたすことのないよう、現在の施設を適切に維持管理するとともに、延命化に努めていただきたい。また、今後のし尿処理施設については、し尿や浄化槽汚泥を有効利用できるような整備計画を検討していただきたい。
- 9 快適な生活環境と健全な水環境の保全のため、公共下水道の効率的な整備の推進、農業集落排水施設の計画的で効率的な維持管理とともに、合併処理浄化槽の補助制度を継続していただきたい。